

ホクコーDr.オリゼフェルテラグレータム粒剤

■種類名：クロラントラニプロール・チフルザミド・プロベナゾール粒剤
 ■有効成分：クロラントラニプロール-----0.75%
 チフルザミド-----3.0%
 プロベナゾール-----24.0%
 ■化管法指定物質：チフルザミド〔第1種〕-----3.0%
 プロベナゾール〔第1種〕-----24.0%

■登録番号：第23203号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2013.01.30
 ■性状：淡褐色細粒
 ■有効年限：3年
 ■包装：1kg×12袋

【特長】

- 抵抗性誘導型殺菌剤Dr.オリゼと、新世代の殺虫剤フェルテラ、紋枯病防除剤グレータムの混合剤。
- 育苗箱処理でももち病・紋枯病・主要害虫を長期間にわたり防除できる。

【適用内容】(2023年10月末日現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	チフルザミドを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 紋枯病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5%) 1箱当り 50g	移植3日前 ～移植当日	1回	育苗箱の 苗の上から 均一に 散布する。	1回	3回以内 (移植時ま での処理 は1回以 内、本田 では2回 以内)	2回以内 (移植時ま での処理 は1回 以内)
		高密度には種 する場合は 1 kg/10a (育苗箱(30× 60×3cm、使用 土壌約5%) 1箱当り 50～100g)						
湛水 直播水稻			は種時		は種同時施 薬機を用い て土中施用 する。		3回以内 (は種時ま での処理 は1回以 内、本田 では2回 以内)	2回以内 (は種時ま での処理 は1回 以内)
稲	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ	1 kg/10a	移植時		側条施用		3回以内 (直播での は種時又 は移植時 までの処 理は1回 以内、本田 では2回 以内)	2回以内 (移植時ま での処理 は1回 以内)

【効果・薬害等の注意】

- 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ◆育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としたのち、十分灌水すること。
 - ◆稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
 - ◆軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
 - ◆処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。

- ◆ 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3～5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- ◆ 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
- ◆ 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5㌧)1箱当りに乾籾として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- ◆ 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ◆ 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
 - ◆ 移植後は湛水状態(湛水深3～5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないように注意すること。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- ❖ 夏期高温時の使用をさけること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
使用後は水管理に注意すること。
- 器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう、適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

作成日 2013年01月31日
改訂日 2025年02月04日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 ホクコーDr. オリゼフェルテラグレートム粒剤
整理番号 1603-07
供給者の会社名称 北興化学工業株式会社
住所 〒103-8341
 東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号
担当部門 企画部 環境安全チーム
電話番号 03-3279-5151
FAX番号 03-3279-5195
緊急連絡電話番号 03-3279-5151
推奨用途 農薬(殺虫殺菌剤)
使用上の制限 推奨用途以外の使用はしないこと

2. 危険有害性の要約
化学品のGHS分類

健康有害性 生殖細胞変異原性 区分2
 発がん性 区分1A
 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(呼吸器 腎臓
 免疫系)
環境有害性 水生環境有害性 短期(急性) 区分1
 水生環境有害性 長期(慢性) 区分1
 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない
 か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険
危険有害性情報 H341 遺伝性疾患のおそれの疑い
 H350 発がんのおそれ
 H372 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、
 腎臓、免疫系の障害
 H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い
 毒性

注意書き
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこ
と。(P202)
粉じんを吸入しないこと。(P260)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこ
と。(P270)
環境への放出を避けること。(P273)
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用する
こと。(P280)

応急措置

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察／
手当てを受けること。(P308+P313)
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けるこ
と。(P314)

保管

漏出物を回収すること。(P391)
施錠して保管すること。(P405)

廃棄

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の
廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

他の危険有害性

情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

情報なし

3. 組成及び成分情報

混合物

化学物質・混合物の区別

クロラントラニプロール・チフルザミド・プロベナゾール粒剤

化学名又は一般名

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
3-ブロモ-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メチルカルバモイル)フェニル]-1-(3-クロロピリジン-2-イル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド (一般名 クロラントラニプロール)	0.75%	$C_{18}H_{14}BrCl_2N_5O_2$	-	8-(1)-3379	500008-45-7
2',6'-ジブロモ-2-メチル-4'-トリフルオロメトキシ-4-トリフルオロメチル-1,3-チアゾール-5-カルボキシアニリド (一般名 チフルザミド)	3.0%	$C_{13}H_6Br_2F_6N_2O_2S$	-	8-(7)-1199	130000-40-7
3-アリルオキシ-1,2-ベンゾイソチアゾール-1,1-ジオキソ (一般名 プロベナゾール)	24.0%	$C_{10}H_9NO_3S$	(5)-3433	既存	27605-76-1
鉱物質微粉等	72.25%	-	-	-	-
結晶質シリカ(石英)	50-60%	SiO_2	(1)-548	既存	14808-60-7
非晶質シリカ	7.5%	SiO_2	(1)-548	既存	112926-00-8
酸化チタン(IV)	< 0.3%	TiO_2	(1)-558	既存	13463-67-7

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

皮膚に付着した場合

気分が悪いときは、医師に連絡する。

多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診察、手当てを受ける。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。

眼の刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受ける。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

ばく露による二次災害の防止。

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水
使ってはならない消火剤	火災が周囲に広がるおそれがあるため、直接の棒状注水を避ける。
火災時の特有の危険有害性 特有の消火方法	火災時に有害ガスが発生するおそれがある。 消火作業は風上から行う。 火元への燃焼源を断ち消火剤を使用して消火する。 周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却し、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 漏出した場所の付近に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。 作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合は、電気掃除機、ほうき等で掃き集める。 火花を発生しない安全な用具を使用する。 大量の場合は、漏出したものをすくいとり、又は掃き集めて、紙袋又はドラム缶等に回収する。 回収後の少量の残留物は、土砂又はおがくず等に吸収させる。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意
取扱い

技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
接触回避 衛生対策	『10. 安定性及び反応性』を参照。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする事。 作業衣を家に持ち帰ってはならない。

保管

安全な保管条件	涼しい所／換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。
安全な容器包装材料	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
鉱物性粉じん	$E = 3.0 / (1.19Q + 1)$ E 管理濃度 (mg/m ³) Q 遊離けい酸含有率(%)	0.03 mg/m ³ (吸入性結晶質シリカ)	TWA 0.025 mg/m ³ (吸入性結晶質シリカ)
酸化チタン(IV)	未設定	1 mg/m ³ (吸入性粉じん)	TWA 10 mg/m ³ (二酸化チタン)

設備対策

取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器
又は局所排気装置を使用する。
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設
備を設置する。

保護具

呼吸用保護具
手の保護具
眼の保護具
皮膚及び身体の保護
具

防じんマスク
保護手袋
保護眼鏡(側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
保護服、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態
色
臭い
沸点又は初留点及び沸点範囲
可燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界
引火点
自然発火点
分解温度
pH
動粘性率
蒸気圧
密度及び／又は相対密度
相対ガス密度
粒子特性

固体(細粒)
淡褐色
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし

10. 安定性及び反応性

反応性
化学的安定性
危険有害反応可能性
避けるべき条件
混触危険物質
危険有害な分解生成物

情報なし
通常の貯蔵・取扱いにおいて安定である。
情報なし
直射日光、高温、多湿
情報なし
通常の条件下では生成しない。
加熱や燃焼により分解し、有害ガスが発生するおそ
れがある。

11. 有害性情報

急性毒性

皮膚腐食性／皮膚刺激性
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性
呼吸器感作性又は皮膚感作性
生殖細胞変異原性

発がん性

生殖毒性
特定標的臓器毒性(単回ばく露)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)

誤えん有害性

経口
経皮

ラット(雌) LD₅₀ > 2,000 mg/kg
ラット(雄) LD₅₀ > 2,000 mg/kg
ラット(雌) LD₅₀ > 2,000 mg/kg
皮膚刺激性試験(ウサギ)：刺激性なし
眼刺激性試験(ウサギ)：軽度の刺激性
皮膚感作性試験(モルモット)：陰性
混合物は区分2の結晶質シリカ(石英)を1.0%以上含
有し、混合物としては区分2に該当する。
混合物は区分1Aの結晶質シリカ(石英)を0.1%以上含
有し、混合物としては区分1Aに該当する。
データなし
データなし
混合物は区分1(呼吸器、腎臓、免疫系)の結晶質シ
リカ(石英)を10%以上含有し、混合物としては区分1
(呼吸器、腎臓、免疫系)に該当する。
データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

魚類 :コイ
甲殻類:オオミジンコ

LC₅₀ (96h)
EC₅₀ (48h)

39 mg/L
0.014 mg/L

残留性・分解性	藻類 : 緑藻	ErC ₅₀ (0-72h)	150 mg/L
生体蓄積性		データなし	
土壤中の移動性		データなし	
オゾン層への有害性		データなし	

13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装		容器は、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意		
国際規制	海上規制情報	IMOの規定に従う。
	UN No.	3077
	Proper Shipping Name	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
	Class	9
	Sub Risk	—
	Packing Group	III
	Marine Pollutant	Applicable
	航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
	UN No.	3077
	Proper Shipping Name	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.
	Class	9
	Sub Risk	—
	Packing Group	III
国内規制	陸上規制	非該当
	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
	国連番号	3077
	品名	環境有害物質(固体)
	クラス	9
	副次危険	—
	容器等級	III
	海洋汚染物質	該当
	航空規制情報	航空法の規定に従う。
	国連番号	3077
	品名	環境有害物質(固体)
	クラス	9
	副次危険	—
	等級	3
特別の安全対策		輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
緊急時応急措置指針番号		171

15. 適用法令	
農薬取締法	登録番号 第23203号
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条) チフルザミド(2025年4月1日以降) 結晶質シリカ 非晶質シリカ(シリカゲル及び沈降シリカに限る。)(2026年4月1日以降) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2)

	チフルザミド(2025年4月1日以降)
	結晶質シリカ
	非晶質シリカ(シリカゲル及び沈降シリカに限る。)(2026年4月1日以降)
	酸化チタン(IV)
	がん原性物質(安衛則第577条の2)
化学物質排出把握管理促進法	結晶質シリカ
	第1種指定化学物質
	プロベナゾール
	チフルザミド
船舶安全法	有害性物質
航空法	その他の有害物質

16. その他の情報

記載内容の問合せ先	会社名	北興化学工業株式会社
	担当部門	企画部 環境安全チーム
	電話番号	03-3279-5151
	FAX番号	03-3279-5195

急性中毒に関する緊急の問合せ先

公益財団法人 日本中毒情報センター(事故に伴い急性中毒のおそれがある場合に限る)

中毒110番 365日 24時間対応

一般市民専用電話(情報料無料) (大 阪) 072-727-2499

(つくば) 029-852-9999

医療機関専用有料電話(1件2,000円) (大 阪) 072-726-9923

(つくば) 029-851-9999

医療機関の方が一般市民専用電話を使用した場合も、情報料 1件につき2,000円を徴収します。

注意事項

本データシートは作成年月日での製品情報を記載しておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。記載されている内容は、安全な取扱いを確保するための情報であり、いかなる保証をなすものではありません。特殊な条件下で使用するときは、その使用状況に応じた安全対策が必要となります。